

# 令和 6 年度 第三セクター 経営状況確認シート

①～④を各団体で記入

⑤を市所管課で記入

① 団体の基本情報	団体名	公益財団法人所沢市文化振興事業団				出資金	200,000 千円		設立年月日	平成4年7月23日		
	団体の設立目的	音楽、演劇をはじめとする優れた芸術文化に接する機会や、市民の芸術文化活動を促進する催事等の場を提供することにより、芸術文化と地域コミュニティの振興を図り、もって地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与することを目的とする。										
	組織の状況 (令和5年4月1日現在)	役員数 (うち常勤数)					職員数 (うち常勤数)					備考 「役員数」に評議員は含まない。評議員数7名(うち1名は副市長)
	市の関与 (財政的、人事的つながり など)	プロパー	市現職	市OB	その他	合計	プロパー	市現職	市OB	その他	合計	
事業の具体的な内容及び実施方法	<p>「所沢市民文化センター ミューズ(以下「ミューズ」)」の指定管理者として、所沢市からの指定管理料を財源にミューズの管理運営を行うほか、様々な芸術文化事業の実施により地域の活性化を図る事業を展開している。実施する自主事業(クラシック・ポピュラー・演劇・寄席等)については、設立当初より利用料金制度を導入し、その収入(施設利用料金等)及びチケット料金収入等を財源としている。市の人事的関与は以下のとおり。市長＝理事長、市現職＝理事2名、市OB＝常務理事(兼事務局)1名。</p> <p>1993(平成5年)のミューズ開館に伴い、施設の管理運営及び地域の芸術文化の振興を図る財団法人として発足、2013(平成25年)4月に公益財団法人へ移行。2006(平成18)年度から指定管理者としてミューズの運営(2006(平成18)年度より3年間、2009(平成21)年度より3年間、2012(平成24)年度より5年間、2017(平成29)年度より1年間、2018(平成30)年度より4年間、2022(令和4)年度より5年間)を行っている。</p> <p>事業団が実施する主な事業内容は以下のとおり。</p> <p>① 優れた芸術文化の提供・発信(音楽・演劇・伝統芸能等の自主事業等の実施)                  ② 文化振興を通じた豊かな社会づくり(まちづくりセンター、教育委員会等の連携によるアウトリーチ事業等の実施)                  ③ ミューズの運営及び貸館業務(利用者サービスの充実、安全・安心な施設運営)</p>											

(単位:円)

② 財務状況		平成31年度(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	経常収益	199,760,172	437,293,609	591,474,257	683,710,104	777,515,970
	経常費用	227,715,082	478,253,474	573,412,416	650,541,194	741,514,368
	経常増減額	△ 27,954,910	△ 40,959,865	18,061,841	33,168,910	36,001,602
	総資産額	667,565,956	633,276,798	668,788,919	728,380,394	743,676,997
	純資産額	468,219,247	427,259,381	444,014,056	477,182,966	513,184,568
	市補助金	0	0	0	23,058,000	14,005,000
	市委託料	188,316,000	304,480,000	306,039,000	327,716,000	329,314,060

③ 活動実績	項目名	単位	H31 (R1)	R2	R3	R4	R5
	ミューズ 利用者数	人	0	99,967	210,956	311,978	390,694
	ミューズ 施設利用率	%	0.0	49.0	66.5	73.3	73.8
	自主事業本数	本	34	54	57	65	91
	自主事業入場者数	人	9,804	17,378	39,209	47,499	84,210
改善内容	<p>上述の4項目(ミューズ利用者数・施設利用率、自主事業本数・入場者数)全てについて、上昇傾向である。</p> <p>◎自主事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開館30周年記念事業をはじめ、音楽、パレエ、寄席、演劇、日本伝統芸能など多彩なジャンルの公演を実施した。</li> <li>埼玉県立芸術総合高等学校や、ズーランアンブラスとの連携に基づき、若い世代が優れた芸術文化に触れる機会を提供した。</li> <li>事業当日の運営(プログラム配布や場内案内など)をサポートする「ミューズ サポートスタッフ」の活動を開始した。</li> <li>職員提案制度の活用により、小学生を対象とした「かき氷デザイン画コンテスト」を開催し、レストラン運営事業者の協力の下でグランプリ1作品を商品化(限定販売)するという子どもの夢を叶える企画を実施した。</li> </ul> <p>◎ミューズの運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お客様に安心して施設をご利用いただけるよう、職員の救命講習やプライオリティゲスト対応研修を行った。</li> <li>一般のお客様に会場いただく公演形式の避難訓練を実施し、お客様の避難経路を改めて確認するとともに、館内スタッフの避難誘導等の災害時対応スキルの向上を図った。</li> <li>来館者の安全に配慮しながら、徹底した節電を行った。</li> <li>レストランで所沢ゆかりのアーティストによるイベントを開催した。また、所沢の食材を使ったメニューを提供するなど特色ある運営を行った。</li> <li>PFI事業者及び運営に携わる関連部署と定期的に「運営担当者会議」を実施し、運営上の課題共有と解消を図った。</li> </ul> <p>◎組織運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4～8年度(5年間)の運営方針“Management Policy 2022～2026”について、芸術文化を取り巻く世界情勢の変化を鑑み、事業団の果たすべき役割を見直し、内容の一部改訂を行った。</li> </ul>						

④ 事業概況	事業の経過及び成果	<p>◎ミューズの30周年であった令和5年度は、“Management Policy 2022～2026”に基づく事業を展開したほか、感謝祭を開催するなどお客様の笑顔につながるような事業を積極的に実施した。</p> <p>◎ミューズの施設運営については、引き続き、市及びPFI事業者と連携するとともに、利用者サービス向上のため運営に携わる関連部署と強力な連携体制を構築し、安全・安心な施設運営を行っている。</p> <p>◎自主事業においては、国内外のアーティストによる公演を積極的に実施し、幅広い世代に芸術文化の楽しさや魅力を届け、過去最高の来場者数と入場料収入を記録した。また、貸館業務における利用料金収入においても過去最高額となった。</p>
	対処すべき課題	<p>◎燃料費や物価の高騰に対応するため、徹底した節電をはじめとする経費節減と収入増</p> <p>◎ミューズが使いやすい施設であり続けるためのPFI事業者や市の情報共有と連携の更なる強化</p> <p>◎芸術文化を通して地域を活性化するための地域連携事業の拡充</p> <p>◎ファン層の更なる拡大を目的とした若い世代(10～30代)をターゲットとした事業の実施</p> <p>◎ミューズの魅力を市内外へ広めるための積極的な情報発信</p>

## ⑤所管課評価

必要性の視点	文化振興事業団の設立目的である「優れた芸術文化に接する機会や、市民の芸術文化活動を促進する」ことは、市の総合計画にも位置付けられた重要な施策に沿うものであり、事業実績・ノウハウを持つ文化振興事業団の存在意義は大きく、引き続き必要である。
効率性の視点	施設利用率は近隣施設と比較しても高い水準を維持しており、良質のサービスを継続的に提供できる団体であると判断できる。しかし、市の厳しい財政状況を考慮すると、収益を増やして指定管理料を圧縮出来るよう、さらなる効率的な運営が求められる。
自立性の視点	令和3年度以降は経常収益が経常費用を上回る財務状況であり、特に令和5年度は設立30周年で自主事業における来場者数と入場料収入及び貸館業務における利用料金収入が過去最高となる等、安定的な経営がされている。現状では、令和4年度に引き続き令和5年度も光熱費高騰への対応として支援金を交付したものの、市の出損金を使うことや追加の委託料が発生していないことから、財務的観点として自立性があると言える。